

製品安全データシート

1. 製品等及び会社情報

1.1 製品の特定

製品名： ローヤルアロー トリプルクリーンディーゼル
 製品分類： 自動車用燃料の清浄分散添加剤（軽油用）
 主な用途： 自動車用燃料系統のための清浄分散添加剤（軽油用）

1.2 会社情報

会社名： 株式会社ユーエスシー
 住所： 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1
 担当部門： 営業1部
 電話番号： 042-351-0011 FAX番号： 042-351-0010
 作成者： 技術部 e-mail：
 作成日： 2020年 4月21日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

- ・ 引火性液体 区分3
- ・ 発がん性 区分2
- ・ 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分3
- ・ 誤えん有害性 区分1
- ・ 水生環境有害性 長期（慢性） 区分2

※上に記述のないものは、「区分に該当しない」か「分類できない」

GHSのラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- 引火性液体及び蒸気
- 発がんのおそれの疑い
- （麻酔作用）眠気またはめまいのおそれ
- 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

安全対策

- *使用前にラベルをよく読むこと。
- *全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- *上記用途以外には使用しないこと。
- *熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- *容器を密閉しておくこと。
- *容器を接地しアースをとること。
- *防爆型の【電気機器/換気装置/照明機器/…】を使用すること。
- *火花を発生させない工具を使用すること。
- *静電気放電に対する措置を講ずること。
- *保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- *屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

応急措置

- *火災の場合：消火するために水（噴霧）、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、その他〔耐アルコール性泡消火剤〕を使用すること。
- *皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水【又はシャワー】で洗うこと。
- *ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断を受けること。
- *吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- *飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

保管及び廃棄方法

- *子供の手の届かない所に施錠して保管すること。

- * 容器の保存は、日光を遮断し、必ず密栓し、温度 40℃以上になる所、水周りや湿度の高い場所には置かないこと。
- * 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- * 容器の廃棄の際は、中身を使い切ってから捨てること。
- * 内容物や容器を廃棄する場合は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物
含有成分及び含有量

成分名・化学名	含有量 mass%	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR 法No.	毒劇法No.
石油系溶剤	95～99	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
燃料添加剤	1～5	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
石油ナフサ (燃料添加剤に含有)	1未満	65996-79-4	非公開	非該当	非該当	非該当
鉱油 (燃料添加剤に含有)	0.07～0.50	64742-54-7	非公開	168	非該当	非該当
1,2,4-トリメチルベンゼン (燃料添加剤に含有)	0.07～0.34	95-63-6	3-7	非該当※ (404)	非該当※ (1-296)	非該当
1,3,5-トリメチルベンゼン (燃料添加剤に含有)	0.01～0.2	108-67-8	3-7	非該当※ (404)	非該当※ (1-297)	非該当

- 注) 化審法No. 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）官報公示整理番号
安衛法No. 労働安全衛生法（安衛法）第 57 条の 2 第 1 項政令指定物質の政令番号
PRTR 法No. 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）対象化学物質の政令番号
毒劇法No. 毒物及び劇物取締法の政令番号

※ 含有量が少ないため非該当

4. 応急措置

- 眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。・眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合： 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水【又はシャワー】で洗うこと。・気分が悪いときは医師に連絡すること。皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。・気分が悪い時は、医師に連絡する。
- 飲み込んだ場合： 無理に吐き出させずに、直ちに医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 水（噴霧）、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、その他 [耐アルコール性泡消火剤]

- 消火方法：
- ・ 保護具を着用し消火剤を使用して消火する。
 - ・ 消火作業は風上から行なう。
 - ・ 周辺火災の場合は、速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は周辺に散水して冷却する。

火災時の特定の危険有害性： 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

消火を行なう者の保護： 適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

- ・ 風下の人を退避させる。
- ・ 付近の着火源となるものを速やかに取除く。
- ・ 屋内で漏洩した場合は窓、ドアを開けて十分に換気を行なう。
- ・ 作業の際には適切な保護具（手袋、マスク、エプロン、眼鏡等）を着用すること。

環境に対する注意事項

- ・ 廃棄物は関連法令に基づいて処理すること。
- ・ 河川や一般排水溝等に排出しないように注意すること。

除去方法

- ・ 少量の場合はおがくず、砂、ウエス等で回収する。その後、漏出区域周辺を水で洗い流す。洗浄した水等は、地面や排水溝等にそのまま流さないこと。
- ・ 多量の場合は土嚢等で流れを止め、ポンプ等でできるだけ回収する。その後漏出区域周辺を水で十分に希釈して洗い流す。洗浄した水等は、地面や排水溝等にそのまま流さないこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 蒸気の発散を抑え、作業環境濃度をできるだけ低く保つように努める。
- ・ 多量の場合、静電気対策を行い、作業衣及び作業靴は導電性のものを用いる。

注意事項

- ・ 周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避ける。
- ・ 眼及び皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具を着用する。
- ・ 取扱い後は手洗い、洗眼を十分行なう。作業衣に付着した場合は着替える。

保管

- ・ 貯蔵場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
- ・ 容器は密栓し、直射日光の当たらない冷暗所に保管する。
- ・ ボイラー等熱源のある場所を避け通風をよくする。

安全な容器包装材料

- ・ 密栓できる容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

	ACGIH		OSHA		その他	
	TWA	STEL	TWA	STEL	TWA	STEL
石油ナフサ	N/E	N/E	N/E	N/E	100 ppm (l)	N/E
Oil Mist	5 mg/m ³	10 mg/m ³	5 mg/m ³	N/E	N/E	N/E

- ・ 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明示する。関連法規に基づいた設備とする。
- 保護具： 眼の保護具 必要に応じて保護眼鏡を着用する。
 呼吸保護具 必要に応じて有機ガス用マスクを着用する。
 皮膚の保護具 必要に応じて耐油性手袋、保護前掛けを着用する。
 その他 導電性安全靴を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外 観： 淡黄色液体	臭 気： 石油溶剤臭
pH値：	沸 点：
引火点： 41℃(T.C.C)	発火点：
爆発限界： 上限 6.5% 下限 0.7%	蒸気圧：
密度(比重)： 0.753 (15/4℃)	溶解度 水： 難溶

10. 安定性及び反応性

可燃性： あり	自己反応性・爆発性： なし
発火性： なし	安定性： 化学的に安定
酸化性： なし	反応性：

11. 有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）

組成物質の有害性

石油系溶剤

- 急性経口毒性： 毒性が低いと予想される。LD50 >5000 mg/kg，ラット
 急性経皮毒性： 毒性が低いと予想される。LD50 >5000 mg/kg，ラット
 急性吸入毒性： 低毒性： 殆ど飽和状態の蒸気濃度より大きいLC50，4 hours,ラット
 高濃度によって、頭痛、めまい感、悪心をもたらす中枢神経系抑制を引き起こすことがある。連続した吸入によって、意識消失および／または死にいたることがある。
- 皮膚腐食性/刺激性： わずかに刺激性があります。
 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性： 眼に殆ど刺激はない
 呼吸器系への刺激： 蒸気またはミストの吸入により、呼吸器系に刺激を引き起こすことがある。
 呼吸器感作性又は皮膚感作性： 皮膚感作物質ではない。
 呼吸性呼吸器有害性： 飲み込んだり嘔吐した時に肺への吸引により、致命的な化学物質起因の肺炎を引き起こすことがある。
 反復投与毒性： 腎臓：雄ラットに生じた腎臓の作用は、ヒトには関連性がないと考えられる。
 生殖細胞変異原性： 変異原性があるとは考えられない。
 発がん性： 発がん作用の限定的証拠がある。
 生殖発生毒性： 動物において母体毒性がある投与量で、胎児毒性が生じる。出生率の低下はないと思われる。

燃料添加剤

- 急性経口毒性： ラットにおけるLD50は >10,000 mg/Kg. これは成分または類似物質のデータに基づいています。この物質を飲み込むと、胃腸の粘膜を刺激し、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛を起こすことがある。この物質を飲み込んだり嘔吐した

りしている際に、肺に吸い込まれることがある。こうなると、肺にひどい損傷をもたらしたり、死に至ったりすることがある。

急性経皮毒性：ウサギにおける LD50 は >2000 mg/Kg。これは成分または類似物質のデータに基づいています。長時間、あるいは広範囲にわたってこの物質に接触すると、有害となる量を吸収することがあり得る。

急性吸入毒性：高濃度の場合、頭痛、めまい、吐き気、昏迷、その他中枢神経系影響による視覚障害や呼吸困難、痙攣を起こすことがある。

局所効果：眼に対する刺激眼を刺激することがあります。カナダ D2B および EU R36 基準に適合しません。

皮膚に対する刺激：わずかな皮膚刺激を起こすことがあります。カナダ D2B にも EU R38 基準にも適合していません。これは類似物質のデータに基づいています。この物質が衣服に付着することなどにより、長時間または繰り返して皮膚に接触すると、皮膚炎を起こすことがある。症状としては発赤、浮腫、乾き、ひび割れなどがある。

呼吸器に対する刺激：この物質が噴霧されたり、加熱により蒸気が発生したりすると、これにばく露して、粘膜や上部呼吸器官を刺激することがある。これは成分または類似物質のデータに基づいています。

皮膚感作性：製品あるいは成分が皮膚感作を引き起こす可能性を示すデータはありません。

吸入感作性：製品あるいは成分が呼吸器官の感作物質である可能性を示すデータはない。

慢性毒性・長期毒性石油ナフサに繰り返して過度にばく露すると、神経系の損傷を起こすことがある。

生殖毒性：製品、あるいは 0.1%以上含まれる成分が、生殖毒性を起こす可能性を示すデータはない。急性毒性（経口）：ラット LD50=4.8mg/kg

1 2. 環境影響情報

石油系溶剤

水生環境急性有害性：10mg/l < LC50 ≤ 100mg/l

水生環境慢性有害性：残留性/分解性：空気中の光化学反応により迅速に酸化する。容易に生分解できると考えられる。
生態蓄積性：潜在的蓄積性を有する。

燃料添加剤

水生環境急性有害性：急性 LC50 は 1~10 mg/L。

水生環境慢性有害性：残留性/分解性：この製品の成分のうち少なくとも 25%が普通で生物分解される。これは OECD 301 タイプのテストデータに基づいている。この製品の成分のうち少なくとも 25%は普通で生物分解される。これは OECD 302 タイプのテストデータに基づいている。

生態蓄積性：成分の 1~10%が生物濃縮される可能性がある。これはオクタノール/水の分配係数測定値に基づいている。

1 3. 廃棄上の注意

製品、容器等の廃棄は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。

1 4. 輸送上の注意

陸上輸送：消防法等の危険物輸送について定めるところに従う。

海上輸送：船舶安全法の定めるところに従う。

航空輸送：航空法の定めるところに従う。

国連番号：3295(炭化水素類)

緊急時応急措置指針番号：128

1 5. 適用法令

- ① 消防法：危険物第 4 類 第 2 石油類（非水溶性）危険等級 III
- ② 労働安全衛生法：危険物 引火性の物
名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 1 6 8 鉱油
- ③ 船舶安全法：高引火点引火性液体
- ④ 航空法：

※ 都道府県又は市町村条例により規制が異なる場合があるので、詳細は当該自治体にご確認ください。

1 6. その他の情報

1 6. 1 引用文献

- ① 石油製品安全データシート作成の手引き 石油連盟（平成 12 年 7 月）
- ② オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）
- ③ J A C A（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース
- ④ 緊急時応急措置指針 [改訂第 2 版] 容器イエローカード（ラベル方式）への適用 日本規格協会
- ⑤ G H S 分類結果データベース 独立行政法人製品評価技術基盤機構
- ⑥ J I S Z 7253 「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）」

1 6. 2 J I S の有無

なし

16.3 記載内容の問い合わせ先

連絡先： 株式会社ユーエスシー
電話番号： 042-351-0011
FAX番号： 042-351-0010

※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報モデルの一つとして、取り扱う事業者提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。
